

	NPO 法人 京都観光文化を考える会	第27号
	<h1>都草だより</h1>	発行人：坂本孝志
		編集人：西野嘉一
		発行所：京都市上京区 下立売通新町西入 京都府庁日本館2階
		電話：075-451-8146

第 4 回 研修バス旅行を終えて ～若狭の国宝建築と馬頭観音を訪ねる～



この度の研修バス旅行は、北陸地方唯一の国宝に指定されている三重塔を持つ名刹明通寺と、重要文化財の馬頭観音を所有する馬居寺（まごじ）と中山寺の 3 カ寺を訪ねた。

まず最初に立ち寄ったのは、若狭で最も拝観者の多い明通寺。真言宗御室派の寺院で山号は桐山（ゆずりさん）、本尊は薬師如来。桐山と言うのは、当初、桐木で本尊の薬師如来を彫ったことに由来する。伽藍に眼をやれば、本堂、三重塔ともに鎌倉時代の国宝建造物。特に三重塔は軒の深さ、端で軽快な反りを打つ屋根の優美さなど、一度見れば決して忘れられない流麗な名塔である。

本尊の薬師如来と脇侍としての降三世明王、深沙大将（いずれも重要文化財）のちょっと変わった三尊形式について住職より詳しく説明がなされた。深沙大将は、砂の中から現れ玄奘を守護したという仏教の守護神で、頭部に髑髏を戴き腹に幼女の首を付けた異形の護法善神として表されている。明通寺の山号の由来ともなった銘木の桐木のみならず、樅（樹齢 500 年）の太木に多くの会員が触れて大いにパワーを戴いた。

その後今日のお食事処「濱の四季」に到着。新鮮な鯛の塩焼きを中心とした田舎料理に皆さんも満足気な様子の顔・顔・顔！ 楽しみなお買い物も済ませたあと、次の訪問地である馬居寺

へ。馬居寺は若狭路では最古の寺院で、聖徳太子の開創と伝えられている。12 年ぶりに御開帳となった秘仏の馬頭観音を、住職の笑いをとる巧みな話しぶりに感心しながら拝見した。

そのあと、最後の訪問地である青葉山の山麓に広がる中山寺へ向った。御本尊の秘仏馬頭観音は、開帳法要は 25 年に一度と、12 年ごとの午年に行われ、馬居寺の御開帳の期間に合わせて開かれた。この観音は日本にある重文の馬頭観音（6 軀）のなかで最も優しく、慈悲に溢れ、綺麗な仏像に違いないことを私は確信した。帰途、バスの中で皆様のご協力を得て初めてクイズ大会を行い、親睦をはかりながら大いに盛り上がった。ご協力くださいました関係者の方々に厚くお礼申し上げます。また来年どこかでお会いしましょう。（担当理事 中江 好喜）

～充実の一日～

何をさて置いても参加したい歴探の旅、今回は格別の感激多し。馬居寺の苔むした小さな庭、何かを感じとりたい気持ちになったけれど、時間に急かれて背をむけた。扇石は踏むまいと遠慮がちに通ったのに、末広がり踏めば縁起が良いとやら、踏んでいけばどんな楽しい老後が過ごせたかと、悔やまれる。中山寺の馬頭観音様、真近で拝し涙ぐんでる自分にビックリ。胸いっぱい感じたのは何だったのか暫し考える。そうか、老い故か苦笑賛嘆。でもその後のお寺様のお接待、素敵なオモテナシ。ことばも姿も温かかった。感激。いつもの中江さん、乱れの無い説明。ちょっと堅いかな。でも今回は少々トチリ有り……。何だかやわらかくて、何だかみじかに感じられて嬉しかった。本部の皆さまの御努力感謝あるのみ、ありがとうございました。（会員 高木義恵）

◆◇ 京都検定 試験対策講習会（1級合格特別コース） ◇◆



10月5日（日）、台風接近で朝から雨脚が激しい中、東京のTKP市ヶ谷カンファレンスセンターに於いて京都検定の試験対策講習会が開催されました。

京都新聞文化センターの主催、京都商工会議所と都草共催で、都草が講師を担当するのは今年で3回目です。130席の会場はほぼ満席となり、昨年に引き続き盛況でした。講義は小論文

対策、テキスト内外の重要事項と旨点、漢字、公開テーマ、今年の出来事、演習問題など八つのパートで行いました。約8時間の長丁場にも関わらず受講者の皆様には熱心に耳を傾けていただき、京都検定1級への思い入れが伝わってきました。試験まで残りわずかとなりましたが、受講者の方が本番では実力を発揮され合格されることをお祈りしております。（会員 齋藤 範枝）

◆◇ 第12回 文化交流会「声明へのいざない」 ◇◆



日本の声明発祥の地「大原魚山」で、11月1日に魚山声明大法要が行われました。朝から生憎の雨でしたが、26名が瑞饋（ずいき：法要などに参列すること）いたしました。

声明は後世には謡曲、民謡、浄瑠璃等日本の音楽の源流として広まっています。それゆえ音律は何故か懐かしく、又心に染み透ってきます。

大原勝林院の極楽橋を渡って本堂の阿弥陀様を拝しながら聞く声明は、朗々とした澄み切った声が、しつとりと雨粒を吸った木々に溶け込み、色づき始めた黄や紅の葉のコントラストが目映り、暫し浄土の世界

へと誘われました。1時間半はあっという間に過ぎ、まだ聞いていたいような余韻の中、近くの茶店で大原女の衣装の説明を聞きながら昼食の湯豆腐を楽しみました。その後宝泉院の樹齢600年の五葉の松を眺めながら抹茶を賞味する貴重な体験の一日でした。（理事 藤井久美子）

声明へのいざないに参加して

声明は、何度か若い時に聞いたもののあまり意識はしていませんでした。今回、大原勝林院での声明法会に参列し、本堂の立派な阿弥陀さまの前でお坊さんの声量あふれる声明を聞いていると、經典の奥深さと心に沁みる安らぎを感じました。また、この声明が音曲の源であると伺い気の遠くなる思いです。私にとっては大原と云えば三千院と寂光院、しば漬のイメージがありますが、日ごろ、朝夕お仏壇に私流のお経を上げていた事を反省し、丁寧なお勤めを心掛けたいと思います。秋雨煙る、大原勝林院声明法会と宝泉院五葉松を拝見しながらのお抹茶、心いやされた一日でした。（会員 切島 勇）

